

第58回原子力規格委員会 議事録

1. 日時 平成28年3月15日(火) 13:30~17:50

2. 場所 日本電気協会 4階 C,D会議室

3. 出席者(敬称略, 出席委員五十音順)

出席委員: 越塚委員長(東京大学), 阿部幹事(東京大学), 浅野(東芝), 石坂(日本原子力発電), 伊藤(原子力安全推進協会), 太田(電力中央研究所), 岡本(富士電機), 兼近(鹿島建設), 菅野(日立GEニュークリア・エナジー), 清水(日本原子力保険プール), 関村(東京大学), 鶴来(中部電力), 寺井(東京大学・原子燃料分科会長), 中島(日本原子力研究開発機構), 中條(中央大学・品質保証分科会長), 中村(東北大学名誉教授・放射線管理分科会長), 新田(日本原子力発電), 原(東京理科大学名誉教授・耐震設計分科会長), 古田(東京大学・安全設計分科会長), 宮野(法政大学), 吉岡(日本電気協会), 吉村(東京大学・構造分科会長),

(22名)

代理出席: 河井(原子力安全推進協会・伊藤委員代理), 小嶋(日本原電・山口運転・保守分科会長代理), 田中(日本製鋼所・楠橋委員代理), 戸井田(東京電力・波木井委員代理), 松澤(三菱重工・佐藤委員代理), 横田(関西電力・文能委員代理), 和田(日本原電・中村放射線管理分科会長代理), 渡邊(原子力安全推進協会・中條品質保証分科会長代理)

(8名)

欠席委員: 姉川副委員長(東京電力), 押部(発電設備技術検査協会)

(2名)

常時参加者: 杉山(原子力規制庁), 堀野(原子力規制庁)

(2名)

説明者: 廣田(三菱重工・破壊靱性検討会副主査), 笹原(NDIリサーチ・供用期間中検討会主査), 江原(日立GEニュークリア・エナジー・供用期間中検査検討会), 北島(電中研・原子燃料管理検討会主査), 平林(東京電力・原子燃料管理検討会), 鈴木(中部電力・保守管理検討会主査), 大山(東京電力・原子燃料品質管理検討会主査)

(7名)

事務局: 沖, 美馬, 佐久間, 田村, 飯田, 富澤, 永野(日本電気協会)

(7名)

4. 配付資料

資料 No. 58-1 第57回 原子力規格委員会 議事録(案)

資料 No. 58-2-1 原子力規格委員会 委員名簿

資料 No. 58-2-2 原子力規格委員会 分科会委員名簿(案)

資料 No. 58-3-1 JEAC4206「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改定案に関する公衆審査における意見に対する回答案

資料 No. 58-3-2 JEAC4206「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改定案 新旧比較表

資料 No. 58-3-3 JEAC4206「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改訂案

資料 No. 58-3-4 改定前後のPTS 評価結果の比較

資料 No. 58-3-5 JEAC4206-201X ΔT_t 導出過程の検証解析

資料 No. 58-4-1 「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験規程(JEAC4207)」201X改定案について

資料 No. 58-4-2 JEAC4207-201X 構造分科会書面投票 コメント集約表/新旧比較表

資料 No. 58-4-3 JEAC4207「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験規程」改定案

- 資料 No. 58-5-1 運転中における漏えい燃料発生時の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程 JEAC4213-20XX 制定案
- 資料 No. 58-5-2 「運転中における漏えい燃料発生時の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程」コメントと対応
- 資料 No. 58-5-3 「運転中における漏えい燃料発生時の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程」(制定案)変更前後比較表
- 資料 No. 58-5-4 JEAC4213「運転中における漏えい燃料発生時の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程」制定案
- 資料 No. 58-6-1 JEAC4209/JEAG4210 の次回改定について (改1)
- 資料 No. 58-6-2 第57回原子力規格委員会の中間報告に関する意見について
- 資料 No. 58-6-3 JEAC4209/JEAG4210 改定案に関する運転・保守分科会書面投票における意見等
- 資料 No. 58-6-4 JEAG4210「原子力発電所の保守管理指針」における現行/改定案の比較表
- 資料 No. 58-6-5 JEAC4209「原子力発電所の保守管理規程」改定案
- 資料 No. 58-6-6 JEAG4210「原子力発電所の保守管理指針」改定案
- 資料 No. 58-7 平成27年度活動実績及び平成28年度活動計画 (案)
- 資料 No. 58-8 平成28年度 各分野の規格策定活動 (案)
- 資料 No. 58-9 平成27年度 原子力規格委員会 功労賞選考結果
- 資料 No. 58-10-1 第3回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム (案)
- 資料 No. 58-10-2 誤記に対する原子力規格委員会の対応と今後の課題について (案)
- 資料 No. 58-10-3 規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の確保に向けた取り組みについて (案)
- 資料 No. 58-11-1 津波に関するワーキンググループの設置について (案)
- 資料 No. 58-11-2 日本機械学会 金属キャスクバスケット用アルミニウム合金事例規格廃止に関する追加御質問への回答の提示
- 資料 No. 58-12-1 発電用原子燃料の製造に係る品質管理指針 (JEAG4204) 改定 中間報告
- 資料 No. 58-12-2 JEAG4204「発電用原子燃料の製造に係る品質管理指針」改定案コメントと対応
- 資料 No. 58-12-3 JEAG4204「発電用原子燃料の製造に係る品質管理指針」新旧比較表
- 参考資料-1 日本電気協会 原子力規格委員会 規約
- 参考資料-2 日本電気協会 原子力規格委員会 活動の基本方針
- 参考資料-3 日本電気協会 原子力規格委員会 規程・指針策定状況
- 参考資料-4 日本電気協会 原子力規格委員会 委員参加状況一覧

5. 議事

(1) 会議開催定足数の確認について

越塚委員長による代理出席者8名(途中代理を含む)の承認後、事務局より、委員総数29名に対して、確認時点で代理出席を含め出席委員は26名であり、委員総数の3分の2以上(20名以上)の出席という会議開催定足数の条件を満たしていることの報告があった。(最終的に出席者は27名)

(2) 前回議事録の確認について

事務局より、資料 No.58-1に基づき、前回議事録案(事前に配付しコメントを反映済み)の説明があり、正式な議事録として承認された。

また、前回議事録の説明時に含めて、第57回原子力規格委員会以降の規格進捗状況について説明があった。

[発刊済み]

①JEAG4625「原子力発電所の火山影響評価指針」

- ・第54回原子力規格委員会において書面投票を実施し、可決
- ・H27.5.22～H27.7.21の期間で公衆審査実施。意見なしのため成案
- ・H28.3.1 発刊

- ②JEAG4610「個人線量モニタリング指針」
 - ・第 54 回原子力規格委員会において書面投票を実施し、可決
 - ・H27.6.12～H27.8.11 の期間で公衆審査実施。意見なしのため成案
 - ・H28.1.27 発刊
- ③JEAG4221「原子力発電所の設備診断に関する技術指針－回転機械振動診断技術」改定案、
JEAG4223「原子力発電所の設備診断に関する技術指針－赤外線サーモグラフィ診断技術」
 - ・H26.11.27～H27.1.26 の期間で公衆審査実施。意見なしのため成案
 - ・H28.3.15 発刊
- ④JEAG4222「原子力発電所の設備診断に関する技術指針－潤滑油診断技術」
 - ・H26.11.27～H27.1.26 の期間で公衆審査実施。1 件意見あり
 - ・第 54 回規格委員会において公衆審査意見対応案を審議し可決
 - ・H28.3.15 発刊

[発刊準備中]

- ①JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針」改定案
 - ・H27.3.12～H27.5.11 の期間で公衆審査実施。意見なしのため成案
 - ・現在発刊準備中
- ②JEAC4601「原子力発電所耐震設計技術規程」改定案
 - ・H27.3.12～H27.5.11 の期間で公衆審査実施し、意見 2 件あり
 - ・第 55 回規格委員会において公衆審査意見対応案を審議し可決
 - ・現在発刊準備中
- ③JEAG4102「原子力発電所の緊急時対策指針」改定案
 - ・第 53 回原子力規格委員会において書面投票を実施し、可決
 - ・H27.3.24～H27.5.23 の期間で公衆審査実施。意見なしのため成案
 - ・現在発刊準備中
- ④JEAC4216「フェライト鋼の破壊靱性参照温度 T_0 決定のための試験方法」改定案
 - ・第 55 回原子力規格委員会において書面投票を実施し、可決
 - ・H27.8.24～H27.10.23 の期間で公衆審査実施。1 名の方から意見を頂く
 - ・第 57 回原子力規格委員会において意見対応案を審議し可決
 - ・現在発刊準備中
- ⑤JEAC4602「原子炉冷却材圧力バウンダリ, 原子炉格納容器バウンダリの範囲を定める規程」改定案
 - ・第 56 回規格委員会において書面投票を実施し、可決
 - ・H27.12.9～H28.2.8 の期間で公衆審査実施。意見無しのため成案
 - ・現在発刊準備中

[公衆審査終了]

- ①JEAC4206「原子炉压力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改定案
 - ・第 54 回原子力規格委員会において書面投票を実施し、可決
 - ・第 55 回原子力規格委員会において書面投票意見対応案を審議
 - ・H27.6.29～H27.8.28 の期間で公衆審査実施。3 名の方から意見を頂く
 - ・構造分科会において意見対応案を審議
 - ・本日審議予定

[書面投票終了]

- ①JEAG4630「浸水防止設備技術指針」制定案
 - ・第 57 回原子力規格委員会において審議、書面投票を実施し、可決（保留 1 件）
 - ・構造分科会において、保留意見及び賛成その他意見の対応案を審議
 - ・構造分科会でのご意見を踏まえ修正中

[審議中]

- ①JEAG4601「原子力発電所耐震設計技術指針（重大事故等対処施設編）」制定案

- ・第56回原子力規格委員会において審議し、書面投票の結果、否決（反対1票）
- ・第57回原子力規格委員会において再審議を実施。審議の結果、書面投票に移行せず、次回以降の規格委員会で再審議をすることとした。
- ・耐震設計分科会において中間報告を実施。
- ・次回以降の原子力規格委員会で審議予定

(3) 原子力規格委員会分科会委員の承認

1)分科会委員の承認

事務局より、資料No.58-2-2に基づき、分科会の新委員候補者4名の報告があり、決議の結果、全員が承認された。

- 構造分科会 1名
 - ・永山 了一（中国電力）
- 耐震設計分科会 3名
 - ・金居田 秀二（日本原電）
 - ・宮坂 英志（東京電力）
 - ・佃 榮吉（産業技術総合研究所）

(4) 公衆審査意見対応案の審議

1) JEAC4206「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改定案

廣田破壊靱性検討会副主査より、資料No.58-3-1～3-5に基づき、JEAC4206「原子炉圧力容器に対する供用期間中の破壊靱性の確認方法」改定案の公衆審査における意見に対する回答案並びに同改定案の修正箇所について、説明があった。

主な質疑・コメントは下記のとおり。

- ・公衆審査が8月に終了し、規格委員会での審議が3月になったが、分科会でどのような対応をしていたのか。

→批判的なご意見も頂いたため、慎重な対応が必要と考えた。構造分科会でも意見が出されて、新たな検討も実施したことから、構造分科会では2回の審議を実施した。

改定案修正箇所について、越塚委員長に編集上の修正であることを判断頂き、対応案及び改定案修正箇所について、挙手による決議を行い、出席委員全員の賛成により可決された。この後、発刊手続きに入るとともに、公衆審査におけるご意見については、ご意見を送付された方へ回答し、HPで公開することの説明が事務局からあった。

(5) 規格案の審議

1) JEAC4207「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験規程」改定案（構造分科会）

笹原供用期間中検査検討会主査及び江原委員より、資料58-4-1～4-3に基づき、JEAC4207「軽水型原子力発電所用機器の供用期間中検査における超音波探傷試験規程」改定案について説明があった。

主な質疑、コメントは下記のとおり。

- ・改定方針にある「新技術等の反映」で、新技術の根拠となる論文を検討したことは規格の中にもどのように書き込まれているか。

→規程の巻末に参考文献として記載。解説-4500-1（資料58-4-2 p87）にも記載。

審議の結果、書面投票に移行することについて挙手による決議を行い、出席委員の全員の賛成により可決された。今後の進め方は下記のとおり。

- ・書面投票期間は、3/16～4/6(3週間)で実施
- ・書面投票の結果、可決された場合は公衆審査に移行（2か月間）。なお、公衆審査開始までの編集上の修正については、委員長、副委員長、幹事に判断を一任

- ・公衆審査の結果、意見提出が無い場合は成案とし、発刊準備に移行
- ・編集上の指摘が意見としてあった場合は、委員長、副委員長、幹事の判断による編集上の修正を承認頂き、修正内容について委員に通知し、発刊準備に入る。
- ・編集上の修正を除く修正がある場合は別途審議（書面審議又は委員会審議）
- ・公衆審査で意見が無く、以降発刊までの編集上の修正については、出版準備（校閲）の範疇として、分科会の責任で修正を行う。

2) JEAC4213「運転中における漏えい燃料発生の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程」制定案（原子燃料分科会）

北島原子燃料管理検討会主査，平林原子燃料管理検討会委員より，資料 No.58-5-1～5-4 に基づき，JEAC4213「運転中における漏えい燃料発生の監視及び漏えい燃料発生時の対応規程」制定案について説明があった。

寺井分科会長から，要求事項を明確にすることでJEACとすることにした旨の補足説明があった。主な質疑，コメントは下記のとおり。

- ・原子力学会の技術レポートは燃料の安全設計しかリファアされていない。核設計と熱水力により設計・製造・運転の全体を見ることによって安全設計となるので，適切な文章にしていきたい。

→仰るとおりであり，対応が必要と考える。

→委員会での本コメントについても書面投票意見対応と同様に対応すること。

審議の結果，書面投票に移行することについて挙手による決議を行い，出席委員の全員の賛成により可決された。今後の進め方は下記のとおり。

- ・書面投票期間は，3/16～4/6(3週間)で実施
- ・書面投票の結果，可決された場合は公衆審査に移行（2か月間）。なお，公衆審査開始までの編集上の修正については，委員長，副委員長，幹事に判断を一任
- ・公衆審査の結果，意見提出が無い場合は成案とし，発刊準備に移行
- ・編集上の指摘が意見としてあった場合は，委員長，副委員長，幹事の判断による編集上の修正を承認頂き，修正内容について委員に通知し，発刊準備に入る。
- ・編集上の修正を除く修正がある場合は別途審議（書面審議又は委員会審議）
- ・公衆審査で意見が無く，以降発刊までの編集上の修正については，出版準備（校閲）の範疇として，分科会の責任で修正を行う。

3) JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所の保守管理規程/指針」改定案について（運転・保守分科会）

鈴木保守管理検討会主査より，資料 No.58-6-1～6-6 に基づき，JEAC4209/JEAG4210「原子力発電所保守管理規程/指針」改定案について説明があった。

審議の結果，分科会・検討会に持ち帰って再検討することとなった。

主な質疑，コメントは下記のとおり。

- ・品質保証分科会と打ち合せた結果に真摯に対応していただいた。リスクに関しては今後 JEAC4111 でも検討するので相談して頂きたい。

- ・海外調査を実施し議論を行った結果，説明された以外は特に追加することはないということか。

→保守管理プロセスの観点には既に JEAC4209 に入っており，リスク管理等の記載が不足している。

- ・「保全活動におけるリスク情報の更なる活用」が「停止時の作業工程中のリスク低減」といった内容になっている様に読める。今後，海外で実施しているリスクベース ISI やオンラインメンテナンス（運転中の検査）等の導入が，今回改定される規程・指針でも可能な内容となっているか。

→工事は基本的に停止中も運転中も含めている。ただ，現状は停止中の工事が多いため，例として記載している。今後，運転中保全等が進んで来れば，そちらの事例を記載することになる。具体的には NEI NUMARC は運転中のリスクと停止時のリスクを書き分けていて，運転中は閾値とセットになるので，今回は停止時を参考に記載している。

- ・ 閾値なりの導入を促すような方向で検討していただきたい。
- 今後、検討する。
- ・ 適用範囲に発電所の敷地外に設置するものがあるのか。
- 日本原電が S A の可搬設備を敷地外に設置すると聞いている。また、周辺のモニタリングステーションも該当する。
- ・ 運転中の検査等に対するリスクの評価検討が除外されていることは非常に残念である。具体的には、リスク情報の意味合いとフローの中での保全重要度の関係が切り離されてしまっている。例えば、MC-8 の解説 14 (13/40) の保全重要度の中でリスク情報を如何に活用するかという本質的な問題を削除している意図が良く分からない。解説 22 (19/40) 科学的知見、運転経験でもリスク情報を外して、後退した改定案であると思う。リスクの観点から定性的にも定量的にも見ていくべきということがしっかりと入ってこなければならぬ。保全の有効性評価の所にリスク情報が蘇っているが、管理シートに入っていないといけない。10 年近く前から議論していたが、特にリスク情報に関しては、保全重要度・保全活動管理指標と全体の評価をフィードバックしていく仕組みという点で違和感を覚える。
- リスク情報は、解説 22 にあるように、従前は科学的知見の一部となっていた。今回は積極的に使うということで、科学的知見ではなくて 18/40 にリスク情報と記載されている。
- ・ その前にあるため、保全重要度の関係に違和感を感ずる。
- 13/40 の重要度の記載で、実際はどうだったかという、安全重要度分類指針の重要度が大きな意味を持ってしまっていた。
- ・ 実際とは何か。現場の話か。JEAC の運用の話か。
- 実際とは、発電所で重要度をどのように規定しているのかということ。
- ・ そもそも JEAC を理解していなかったということか。
- 安全上重要度区分で分類されている。従前では解説 13(2)のように、具体的にリスクを考慮して、安全重要度の高い機器を低いものに変えるといったところまで許容されるといった記載になっている。今回は技術基準規則に S A が入ってきた。機器単位・系統単位でリスクを使って、重要度を高いものから低いものへと下げるといったことも検討していく。このコンセプトを(2)だけでなく(1)にも記載している。
- ・ 保全重要度の設定の所にリスク情報はどの様に生かされているか、という議論がより具体化されると思うが、今はその議論をしているということで良いか。
- 今は保全重要度の設定の仕方ということ。
- ・ 保全を実施した結果の評価手法とリスクとの関係、リスク情報をどのように活用するのか。
- 保全した結果で保全周期を見直す。その機器の重要度に関するリスク情報を用いて、保全間隔を短縮または延長する評価をすることも考えられる。
- ・ それは従前と同じ。保全をやる前と同じリスク情報という意味なのか。保全をやった結果でどの様に改善されたか、どういう組み合わせでどういう順番で保全をやったか有効評価ができていくというコンセプトでフィードバックを作った。このフローチャートは JEAC4111 と整合性を持って作ってきたとの自負を持っている人間としては後退感がある。
- ・ 機器の安全上重要度、保全の重要度等を、今後の P R A の結果で決めていくということか。
- その通り。
- ・ そういうことを導入する、促す内容になっているか、良く読んで確認する。
- ・ [越塚委員長] 後退しているのではなく、重要度を増やす方向で改定しているというのが分科会の認識で良いか。分科会としては、この案のまま投票するのか、一旦持ち帰るのか。
- 分科会で承認されており、この案のまま投票したい。
- ・ JEAC のことを言っているのか JEAG も含めていっているのかクリアにしていきたい。コードとしての議論の不十分さがある、JEAC と JEAG を区別して議論していないことが明らか。JEAC としてどうするのか JEAG としてどうするのか、あいまいな形のまま書面投票するのは反対である。
- ・ [越塚委員長] JEAC・JEAG の両方を書面投票に入ると宜しいか。分けて実施する方法もあるが。

- ・JEAC4209 はエンドースされることを考えるとやるべき議題にはなっていると思っていたが、解説が JEAC に含まれていることから制定するのは如何なものか。なぜ一括で行うのかも説明はない。

→指針は規程も書き込まれた形で記載されている。

- ・13/40, 18/40, 19/40, 解説 14 は JEAC か。

→括弧の中が JEAC, 外が JEAG になる。

- ・今回 JEAC だけでインディペンデントな規程になっているという説明がなかった。JEAG も含めて OK だから OK とはならない。規制基準検査検討会では JEAC だけがエンドースされる。JEAC が全体としてちゃんと纏まりがあることが審議されなくてはならない。
- ・JEAC としてまとまっていることの説明があるべきとのご意見があるが、JEAC・JEAG 別々に決議してよいか。分科会の考えはどうか。
- ・色々ご意見をいただいたため、持ち帰ってもう一度検討したい。
- ・[越塚委員長] 分科会の方から持ち帰るとのことなので、本件、書面投票へ移行する決議はしないこととする。

(6) 平成28年度活動計画の審議, 各分野の規格策定活動の報告

各分科会または事務局より、資料No.58-7に基づき、平成27年度活動実績及び平成28年度活動計画(案)について説明した。

審議の結果、特にコメントはなく、挙手にて決議した。

資料No.58-8に基づき、事務局より各分野の規格策定活動について報告した。

(7) 平成27年度原子力規格委員会功労賞対象者の審議

＜関村委員, 新田委員が退席＞

事務局及び越塚委員長より、選考経緯が報告された。すなわち、昨年12月から2月上旬まで推薦申請を受け付けた結果について事務局から越塚表彰審議会主査に報告し、表彰審議会委員による審議・意見集約の上、第12回表彰審議会を书面開催し書面決議を実施した結果、資料No.58-9にある7名(関村直人, 新田隆司, 大谷徹, 柘明彦, 中島政隆, 戸村典章, 松本和之各委員)が選考された。なお、規約運用細則上は原則として毎年5名以内となっているが、7名の方はいずれも貢献が顕著であり、審議会メンバー全員の合意により選考されたことが紹介された。

審議の結果、特にコメントはなく、挙手にて決議した。

＜関村委員, 新田委員が着席＞

第3回原子力規格委員会シンポジウム後の懇親会で表彰式を行うことが紹介された。

(8) 基本方針策定タスク案件の審議・報告

1) 第3回原子力規格委員会シンポジウム(案)について

事務局より、資料No.58-10-1に基づき、第3回原子力規格委員会シンポジウム(案)について説明があった。越塚委員長より、成功するよう各委員が協力していただけるよう要請を行った。

意見・コメントはなし。

2) 誤記に対する原子力規格委員会の対応と今後の課題について(案)

事務局より、資料No.58-10-2に基づき、これまでの経緯と主な実施事項、今後の課題についての中間報告があった。

主な質疑, コメントは下記のとおり。

- ・数式や内容など規格の本質に関わる部分は別のところでチェックするのか。

→チェックリストを付け加える形で準備したい。

3) 規格策定プロセスの透明性・公開性の一層の確保に向けた取り組みについて(案)

事務局より、資料No.58-10-3に基づき、これまでの状況と課題、具体的検討の進め方等について説明があった。

主な質疑, コメントは下記のとおり。

・反対意見に対して説明し取り下げてもらえることがあるが、そういったプロセスを透明化することについてどう考えるか。

→それらを含めた検討を進めていきたい。

・最新知見の反映状況はどんなイメージか。

→現時点でイメージはなく、今後検討したい。

(9) 原子力関連学協会規格類協議会の報告

事務局より、3月8日に開催された第44回原子力関連学協会規格類協議会に関して紹介された。資料 No.58-11-1 に基づき、津波に関するワーキンググループを設置することについて合意され、構成メンバーとして3学協会の他、土木学会（原子力土木委員会 津波評価小委員会）、日本建築学会（原子力建築運営委員会）、津波工学会にも声掛けし、日本地震工学会報告書をもとにした検討、津波に関する課題の抽出、新知見の収集について検討することが報告された。

質疑、コメントはなし。

また、資料 No.58-11-2 に基づき、規格廃止に係る原子力規制庁からの質問に対し日本機械学会が1月28日に回答した内容が報告された。

質疑、コメントはなし。

〔越塚委員長〕重要な教訓として受け止め、日本電気協会として改善に取り組んでいきたい。

(11) 規格の策定状況(中間報告)

1) JEAG4204「発電用原子燃料の製造に係る品質管理指針」改定案（原子燃料分科会）

大山原子燃料品質管理検討会主査より、資料 No.58-12-1,2 に基づき、「発電用原子燃料の製造に係る品質管理指針（JEAG4204）」改定案の修正及びこれまでのコメントへの対応について、中間報告が行われた。今後1か月を目途に、意見がある場合は事務局に提出することになった。

主な質疑、コメントは下記のとおり。

・品質保証検討会から出されたコメントについては、誠実に対応していただいた。

(12) その他

1) 次回開催日について

第59回原子力規格委員会の開催は、平成28年6月21日(火)午後とした。

以 上